



ORIX

ORIX Today, the ORIX of Tomorrow

オリックス株式会社

グループCFO 浦田 晴之

2011年9月15日

本資料に関する注意事項

本資料に掲載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に係る見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

従いまして、これらの見通しのみ全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。実際の業績は、外部環境および内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることを、ご承知おきください。

これらの見通しと異なる結果を生じさせる原因となる要素は、当社がアメリカ合衆国証券取引委員会(SEC)に提出しておりますForm20-Fによる報告書の「リスク要因(Risk Factors)」、関東財務局長に提出しております有価証券報告書および東京・大阪証券取引所に提出しております決算短信の「事業等のリスク」に記載されておりますが、これらに限られるものではありません。

本資料は、調整後の長期借入債務および有利子負債、調整後の総資産および調整後の当社株主資本や、さらにそれらを用いて計算されたその他の指標を含めた米国会計基準に準拠しない(Non-GAAP)特定の財務指標を含んでおります。Non-GAAP財務指標は、米国会計基準に準拠した連結財務諸表や表示を含んでいる最も直接的に比較できる財務指標に対して、分離または代用として考慮されるものではありません。これらNon-GAAP財務指標と米国会計基準に準拠した財務指標を最も直接的に比較することができる調整表につきましては、本資料34ページおよび35ページを参照下さい。

なお、本資料は情報提供のみを目的としたものであり、当社が発行する有価証券への投資の勧誘・募集を目的としたものではありません。

目次

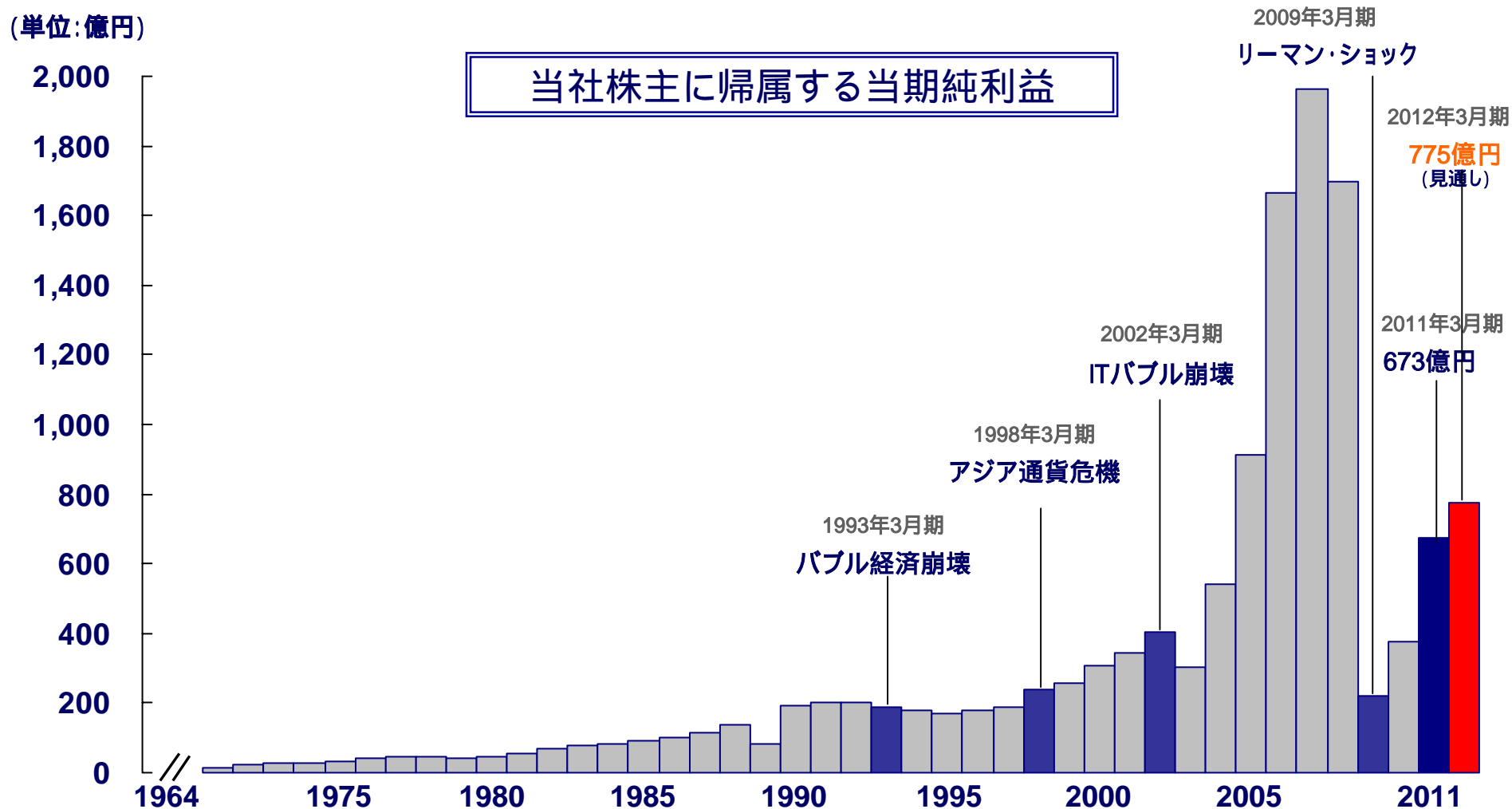
・ オリックスについて

・ オリックスの強み

・ 今後の成長戦略

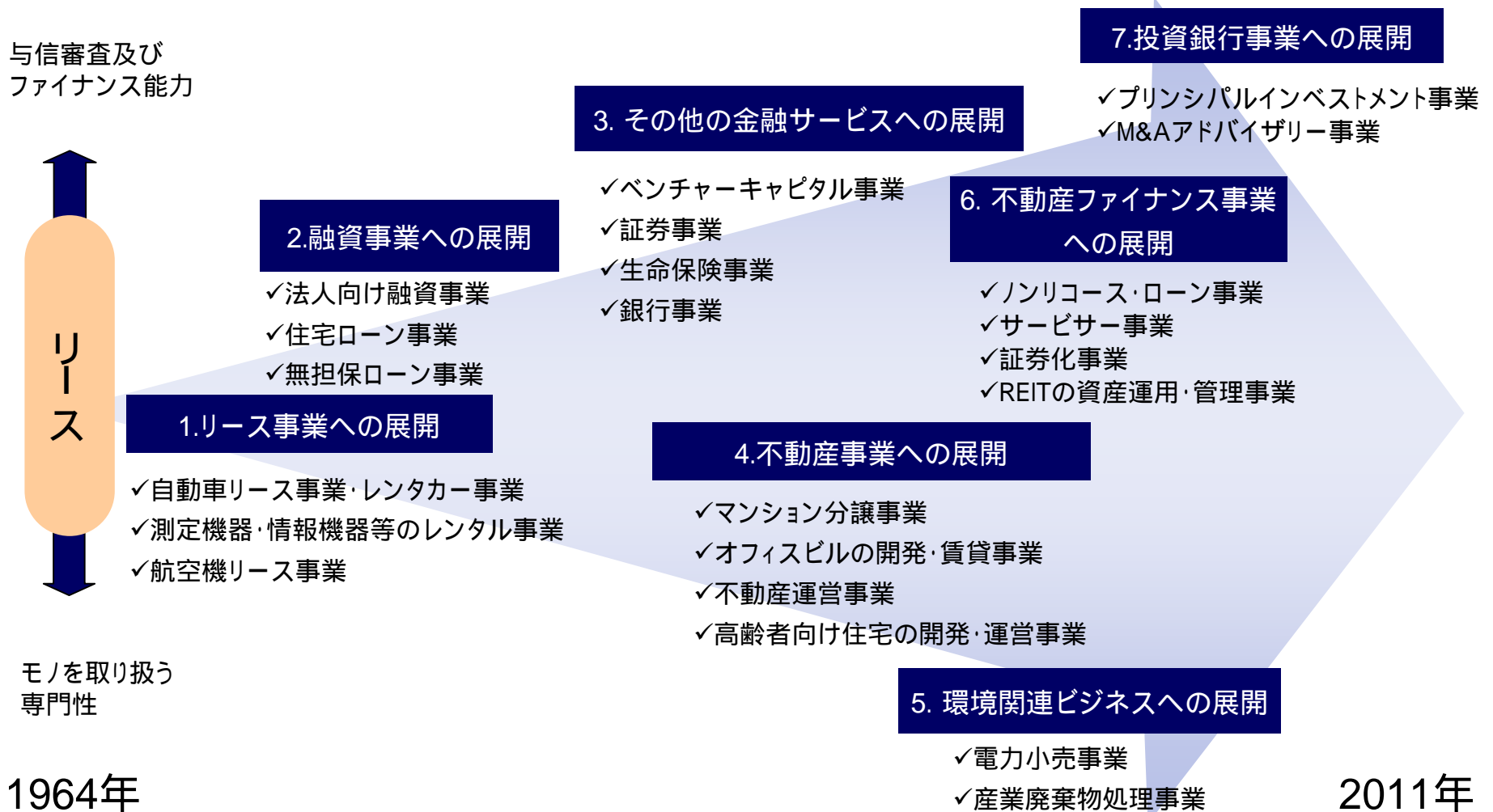
オリックスについて (1)

- 創業時を除く47年間毎期黒字を計上し、持続的な成長を実現



オリックスについて (2)

■ 「金融」と「モノ」の専門性を高めながら、隣りの領域へ事業を進化

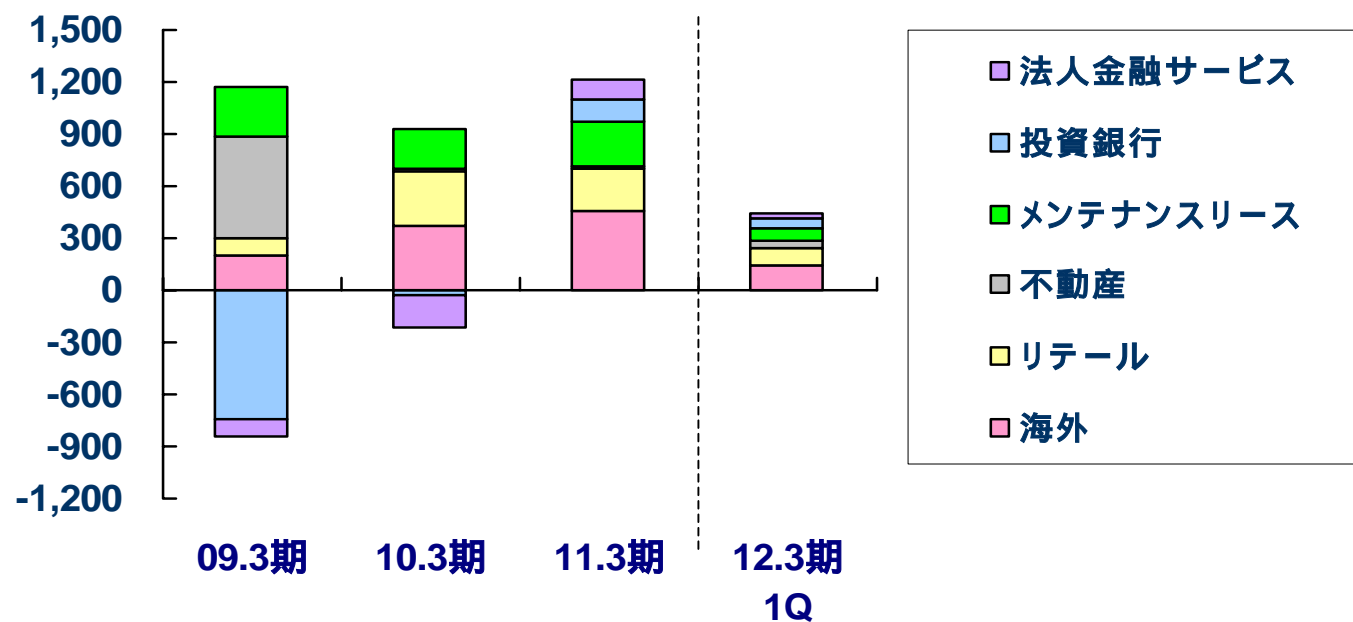


オリックスについて (3)

- 10/3期、11/3期は2期連続で70%を超える増益
- 今1Qの当期純利益は前年同期比44%増の237億円
- 通期純利益見通し775億円に対して31%を達成

セグメント利益の推移

(単位:億円)

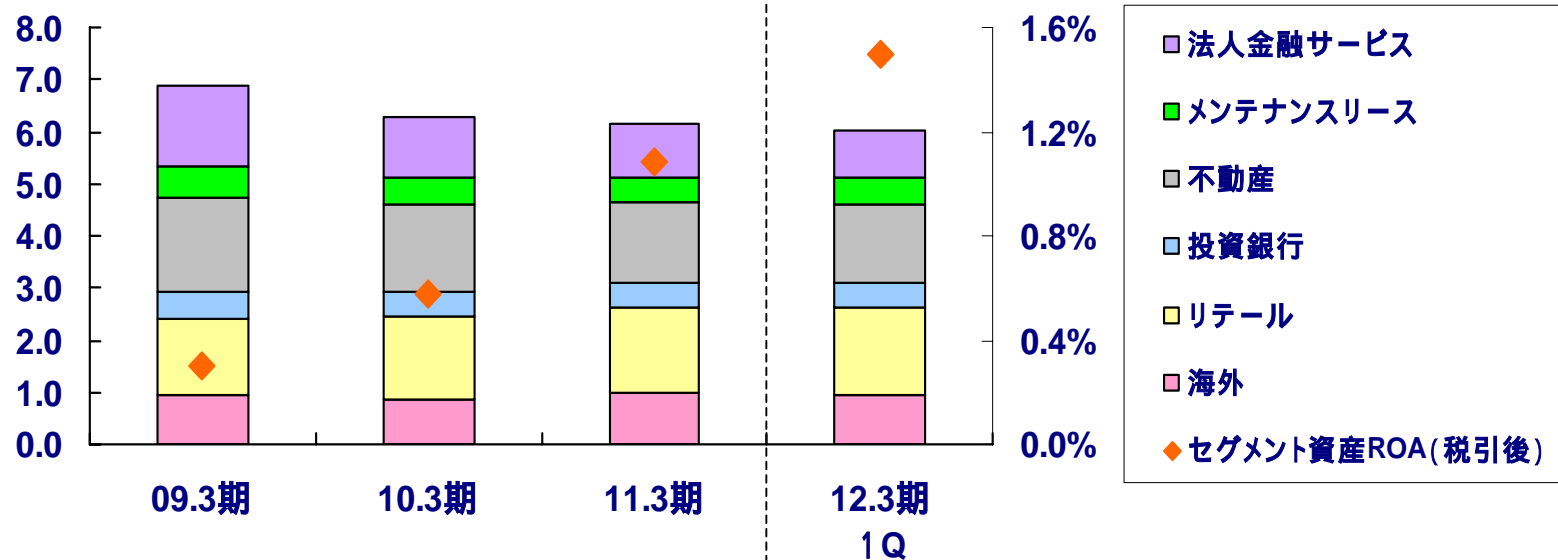


オリックスについて (4)

- 資産は横ばいながらROAが上昇中

セグメント資産の推移

(単位:兆円)



* 12.3期1Qセグメント資産ROAは年換算されています。

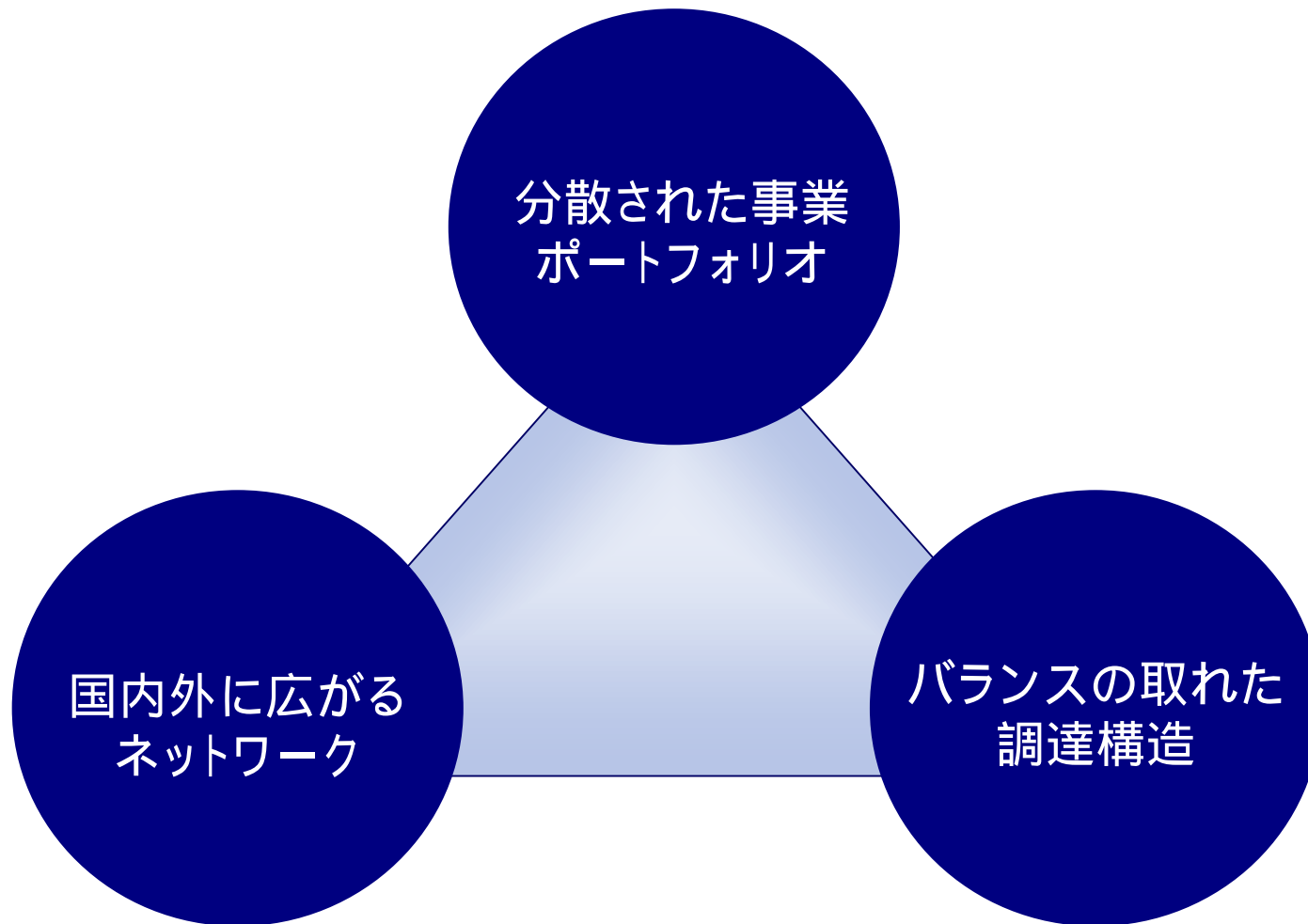
・ オリックスについて

・ オリックスの強み

・ 今後の成長戦略

．オリックスの強み

- 分散されたポートフォリオ、ネットワーク、バランスの取れた調達構造が強み



・ オリックスについて

・ オリックスの強み

1. 分散された事業ポートフォリオ

2. 国内外に広がるネットワーク

3. バランスのとれた調達構造

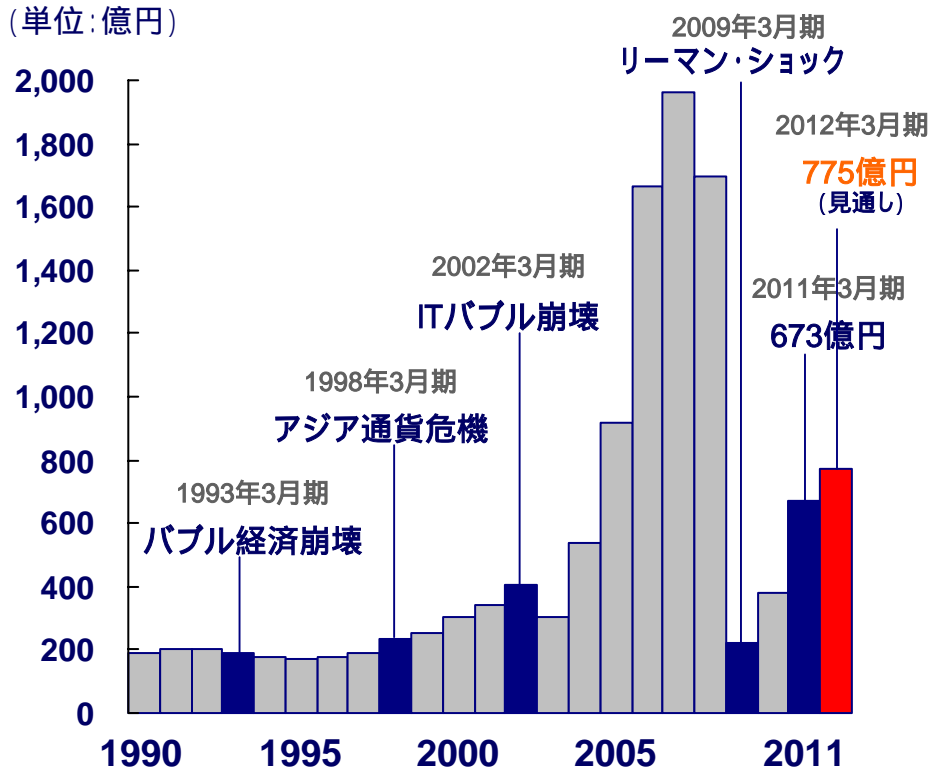
・ 今後の成長戦略

オリックスの強み 1. 分散された事業ポートフォリオ

- 大きな環境変化を受けても、分散効果により底固い利益を確保

当社株主に帰属する当期純利益

(単位:億円)



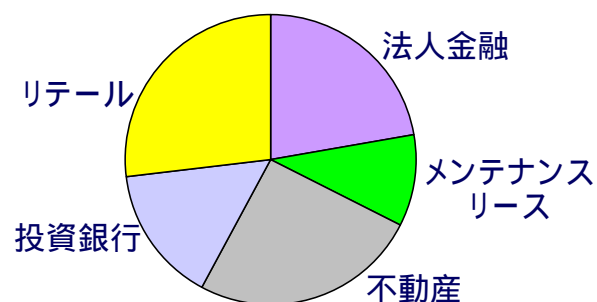
イベント	分散効果
バブル経済崩壊	融資は大幅に縮小したが、自動車・船舶などのオペレーティングリースが順調、ファイナンスリースも堅調
アジア通貨危機	アジアは損失計上ながら、米国のファイナンスリース・融資が順調。国内もファイナンスリースが好調
ITバブル崩壊	米国は大幅減益、アジアも利益貢献小。国内が法人金融、自動車リース、NRLなどを中心に牽引
リーマン・ショック	米国においても黒字を確保。アジアのリース、国内のメンテナンスリース、生命保険が堅調で黒字を維持

オリックスの強み 1. 分散された事業ポートフォリオ

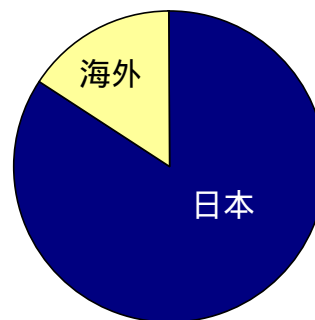
■ 大きな環境変化の度に、新たなビジネスチャンスを獲得

バブル経済崩壊 (1990年代前半)	<ul style="list-style-type: none"> 債権回収・不動産担保処分のノウハウを活かし、不動産関連ビジネス・企業再生・NPLサービシング等、事業の高度化や多角化を推進
アジア通貨危機 (1990年代後半)	<ul style="list-style-type: none"> アジア・大洋州では損失を計上したが、拠点を閉鎖せずに、ローカルパートナー、ローカル顧客との関係を維持・継続
ITバブルの崩壊 (2000年代前半)	<ul style="list-style-type: none"> 米国では、債券投資やCMBSサービシング事業など専門性の高いビジネスへ移行
リーマン・ショック (2009年3月期以降)	<ul style="list-style-type: none"> 米国では「金融 + サービス」の強化・拡大を目指し、M&Aを実施 国内では新たなアライアンスの構築、マトリックス営業体制の強化

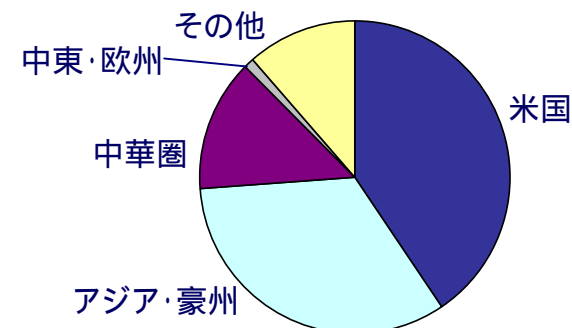
事業別資産内訳



国内外資産内訳



海外資産内訳



(11.3末時点)

・ オリックスについて

・ オリックスの強み

1. 分散された事業ポートフォリオ

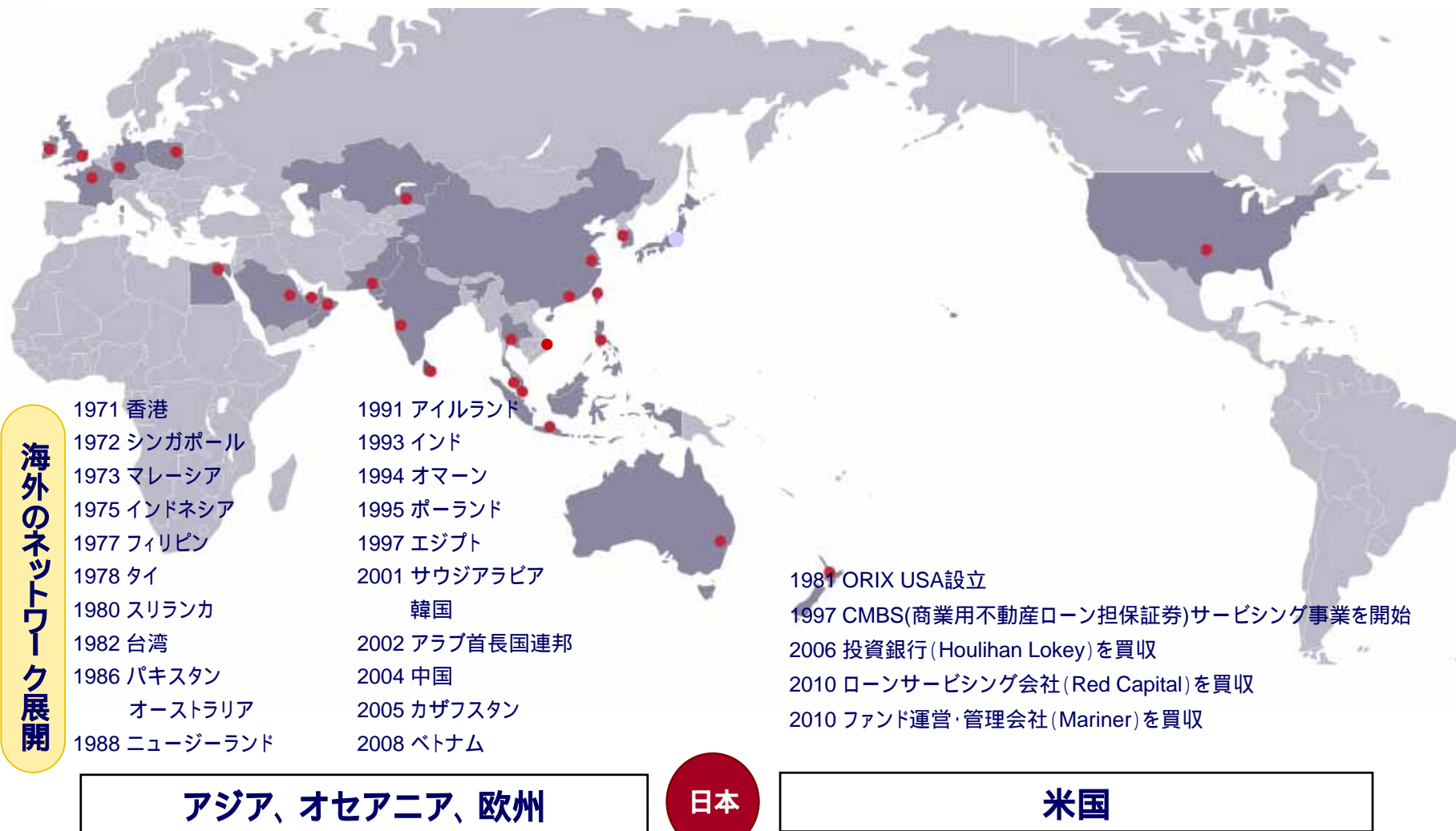
2. 国内外に広がるネットワーク

3. バランスのとれた調達構造

・ 今後の成長戦略

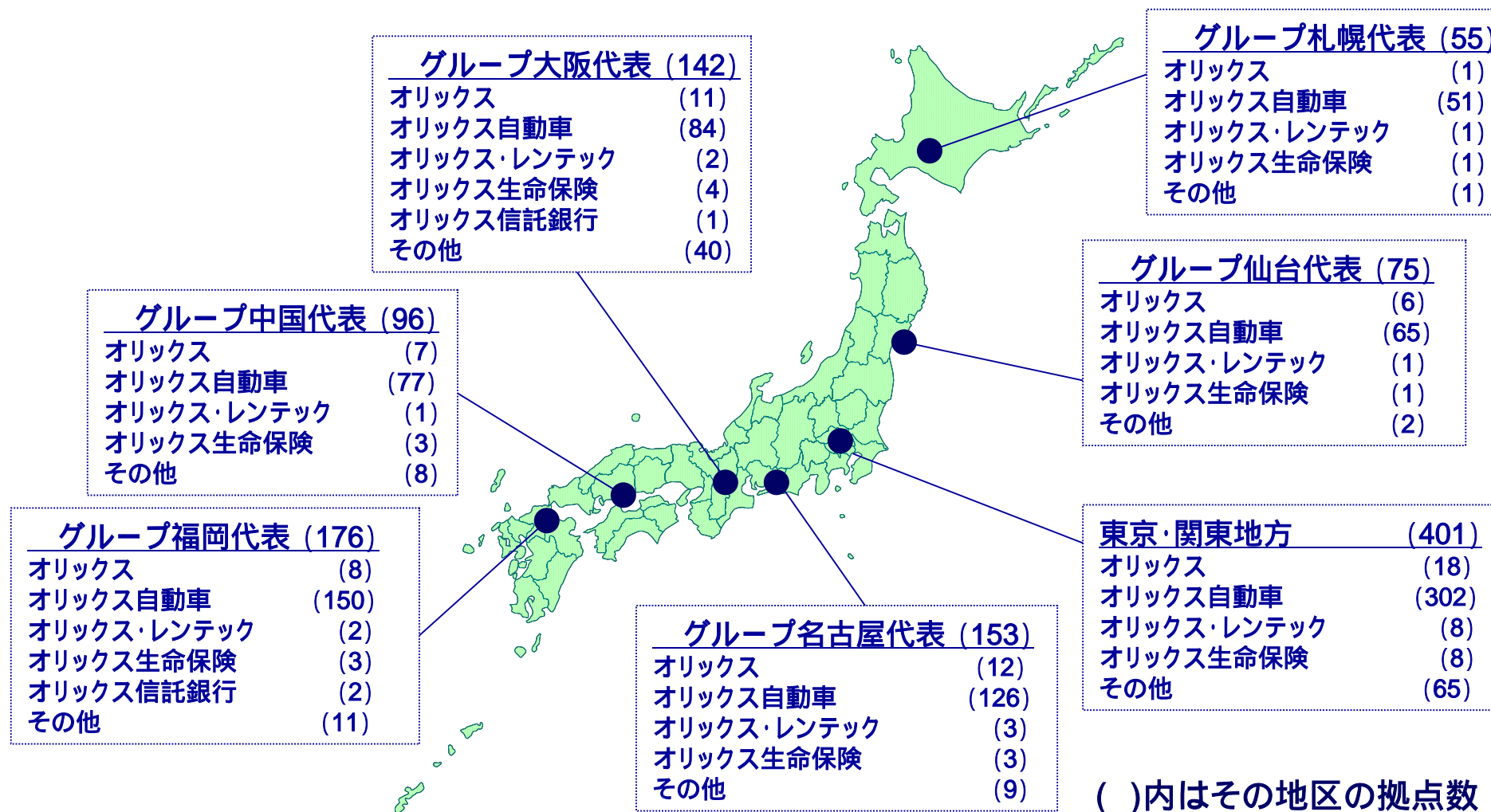
オリックスの強み 2. 国内外に広がるネットワーク

■ 香港進出から40年、26カ国306拠点の海外ネットワークを構築



オリックスの強み 2. 国内外に広がるネットワーク

■ 地区代表設置によりネットワーク機能の強化、グループ力の向上を図る



・ オリックスについて

・ オリックスの強み

1. 分散された事業ポートフォリオ

2. 国内外に広がるネットワーク

3. バランスのとれた調達構造

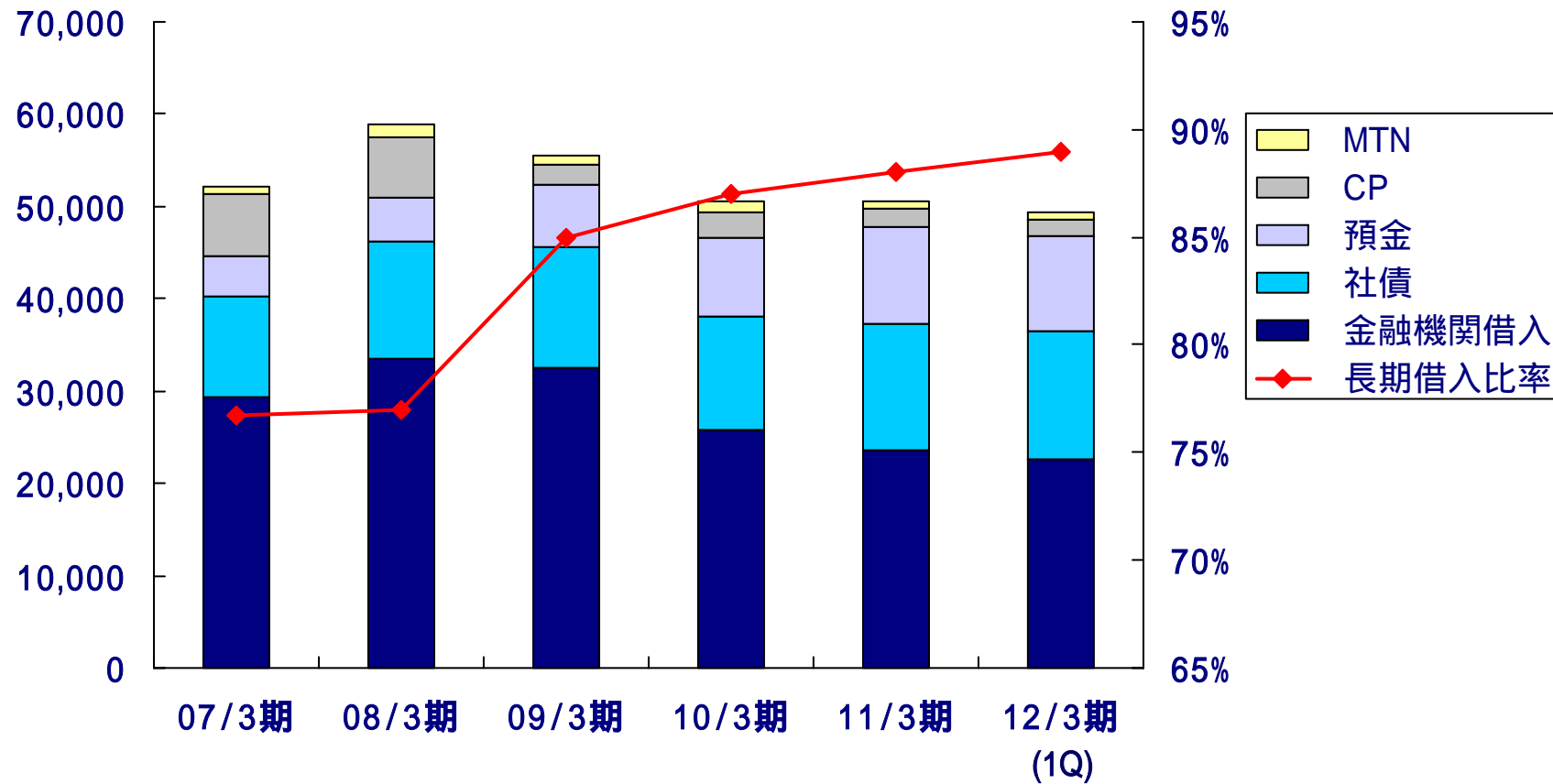
・ 今後の成長戦略

オリックスの強み 3. バランスのとれた調達構造

■ バランスの取れた調達構造と借入の長期化を実現

有利子負債と長期借入比率の推移

(単位: 億円)

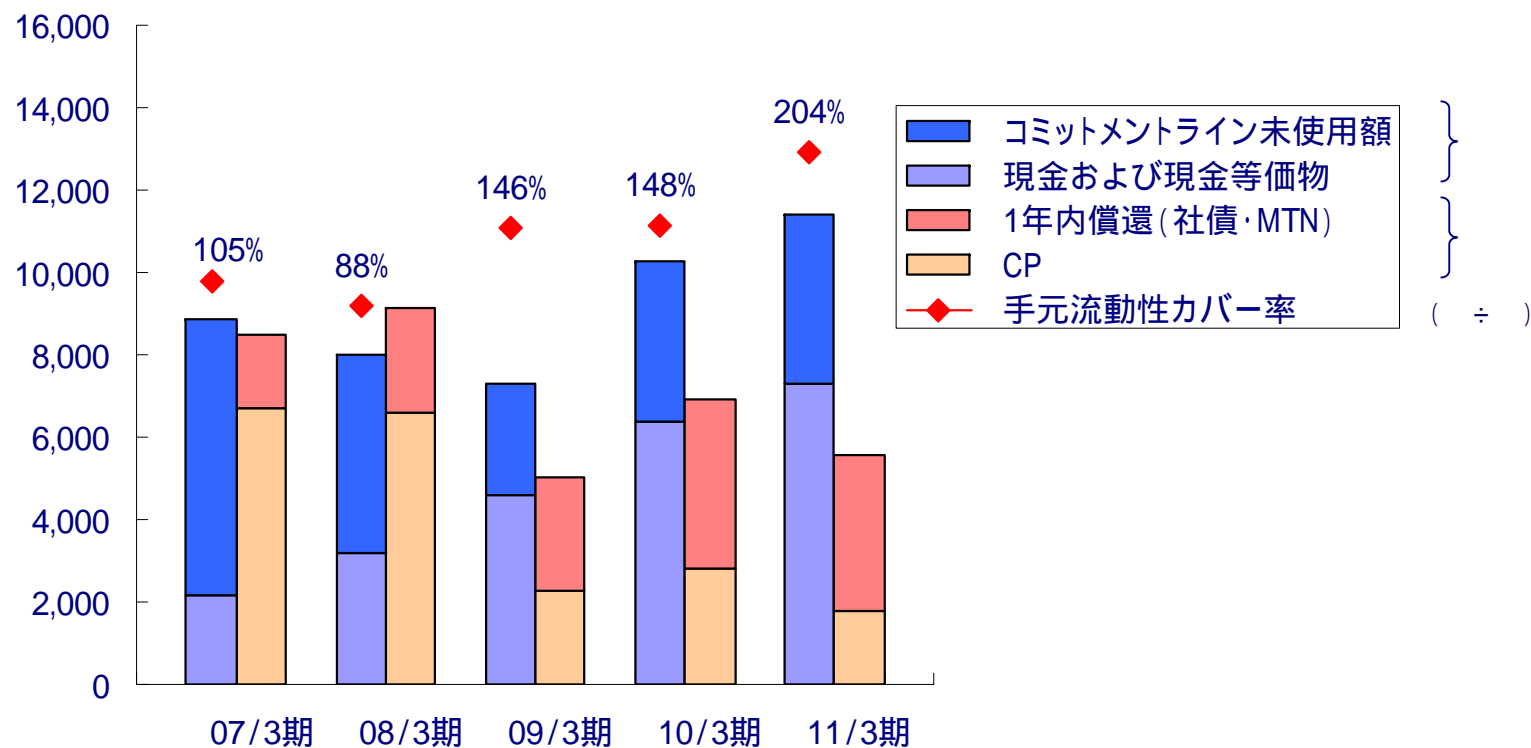


オリックスの強み 3. バランスのとれた調達構造

■ 高い手元流動性を確保

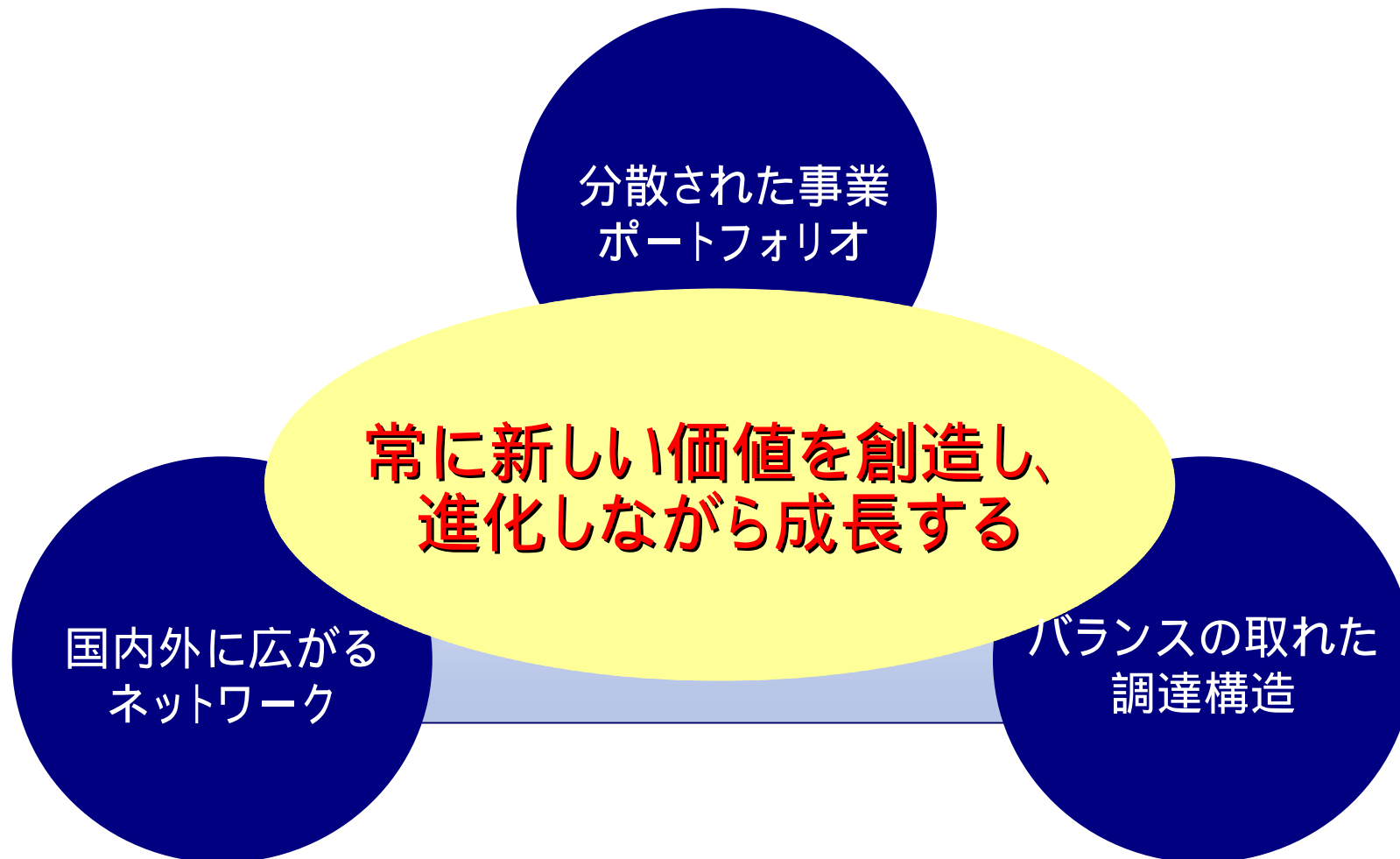
短期借入債務に対する手元流動性

(単位:億円)



オリックスの強み まとめ

- 3つの強みと、新しい価値の創造を追求するDNA



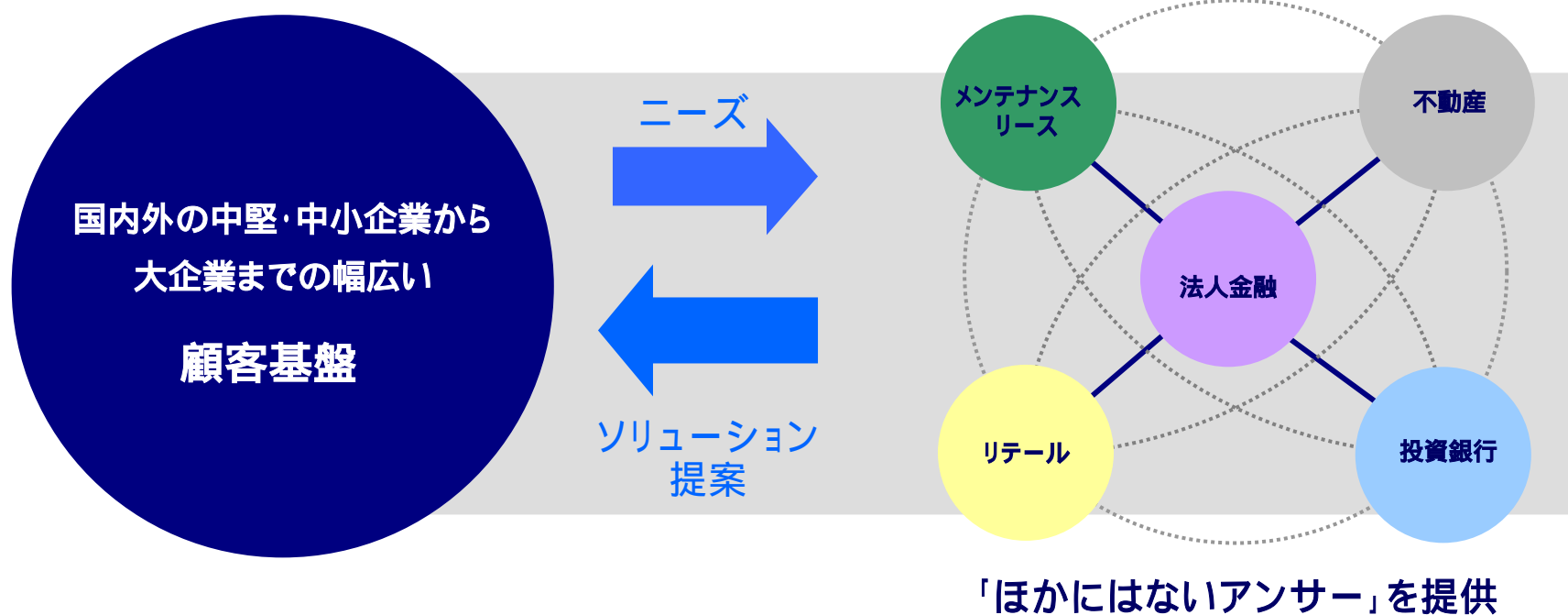
-
- ・ オリックスについて
 - ・ オリックスの強み
 - ・ 今後の成長戦略

1. 「金融 + サービス」の加速化

2. アジア等新興国の成長を取り込む

今後の成長戦略 1. 「金融 + サービス」の加速化

- 専門性の集結による「知の融合」や「グループネットワーク」力を使って、顧客へのソリューション提案を実践



今後の成長戦略 1. 「金融 + サービス」の加速化

■ 自動車リース事業はファイナンス事業からサービス事業へ進化を遂げた



一
丁
ズ

・資金調達

・節税

・コスト削減

・車両管理業務
の合理化

・アウトソーシング

・車両の最適利用

・環境負荷低減

・コンプライアンス

時代と共に進化するサービス

・法人向け自動車リース事業開始

-車両の購入・廃棄・売却、
会計処理支援

・メンテナンスサービス

-車両入替、保険付保
-24時間ユーザーサポート、
事故処理対応

・車両管理サービス

・給油専用カード発行

・自動運転診断サービス

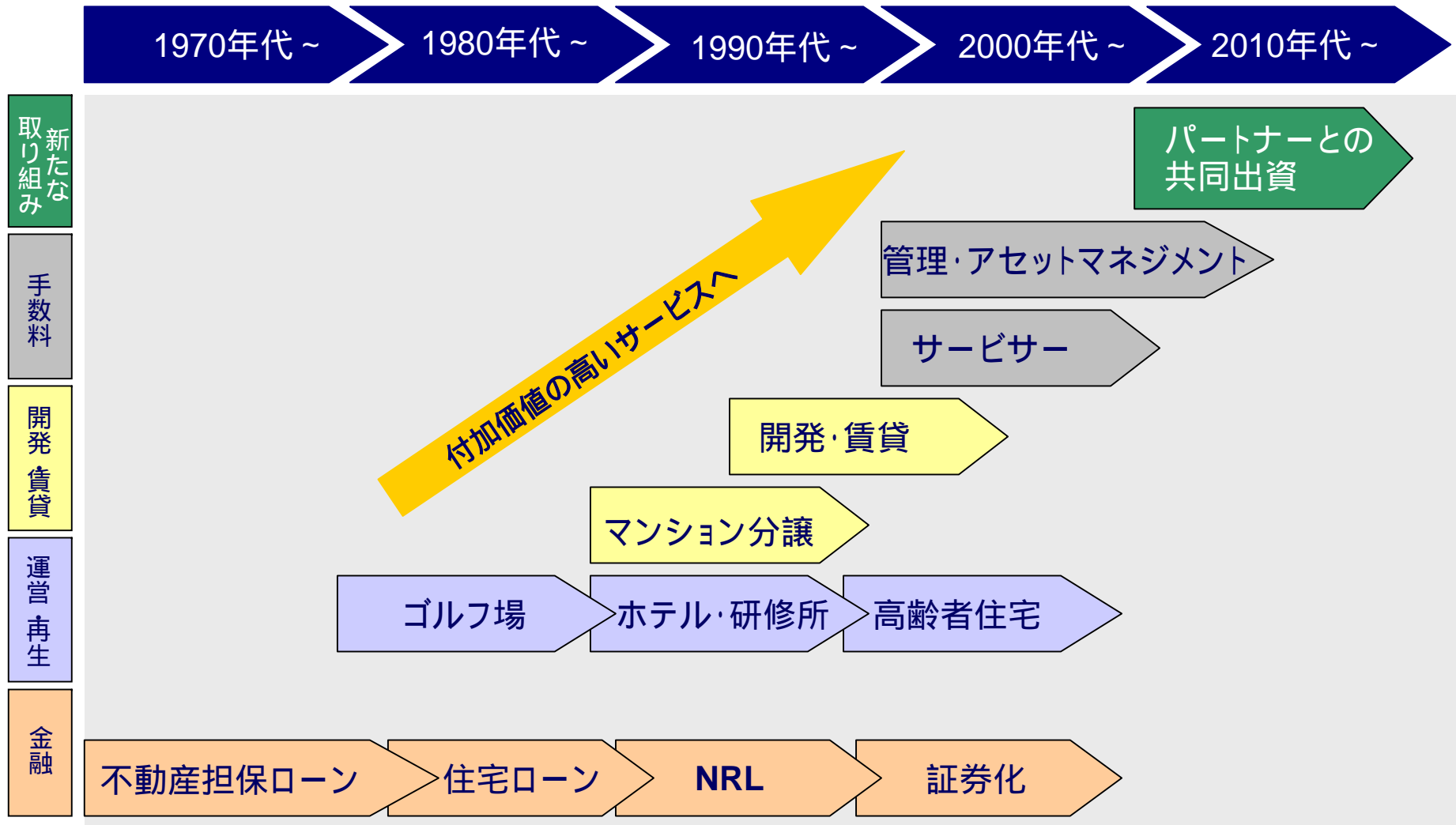
・カーシェアリング

・テレマティクス
サービス

・トータルソリューションサービス

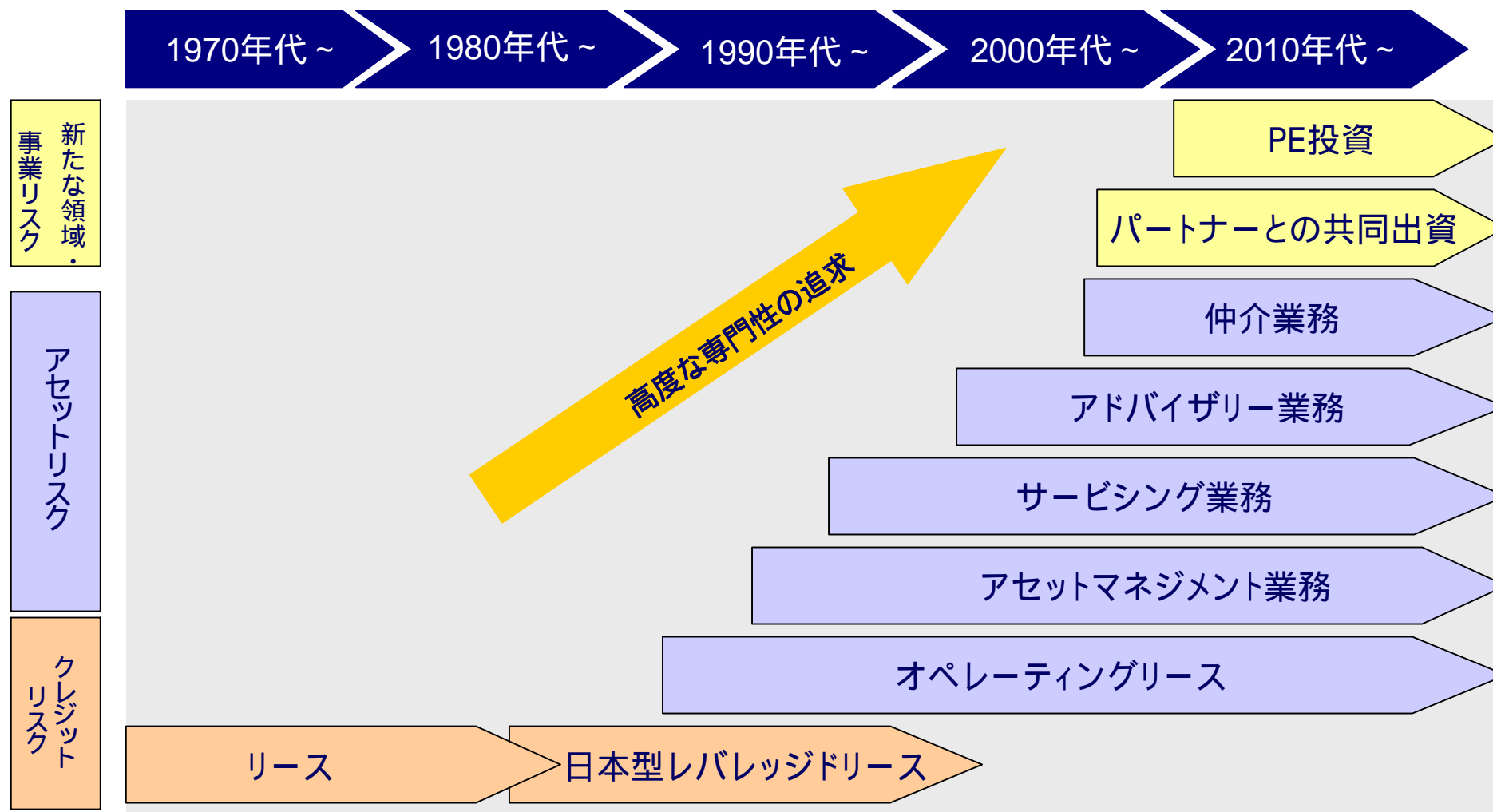
今後の成長戦略 1. 「金融 + サービス」の加速化

■幅広いバリューチェーンを活かした付加価値の高いサービスを提供



今後の成長戦略 1. 「金融 + サービス」の加速化

- 航空機リースもリースからアセットマネジメント、そしてエクイティ投資まで



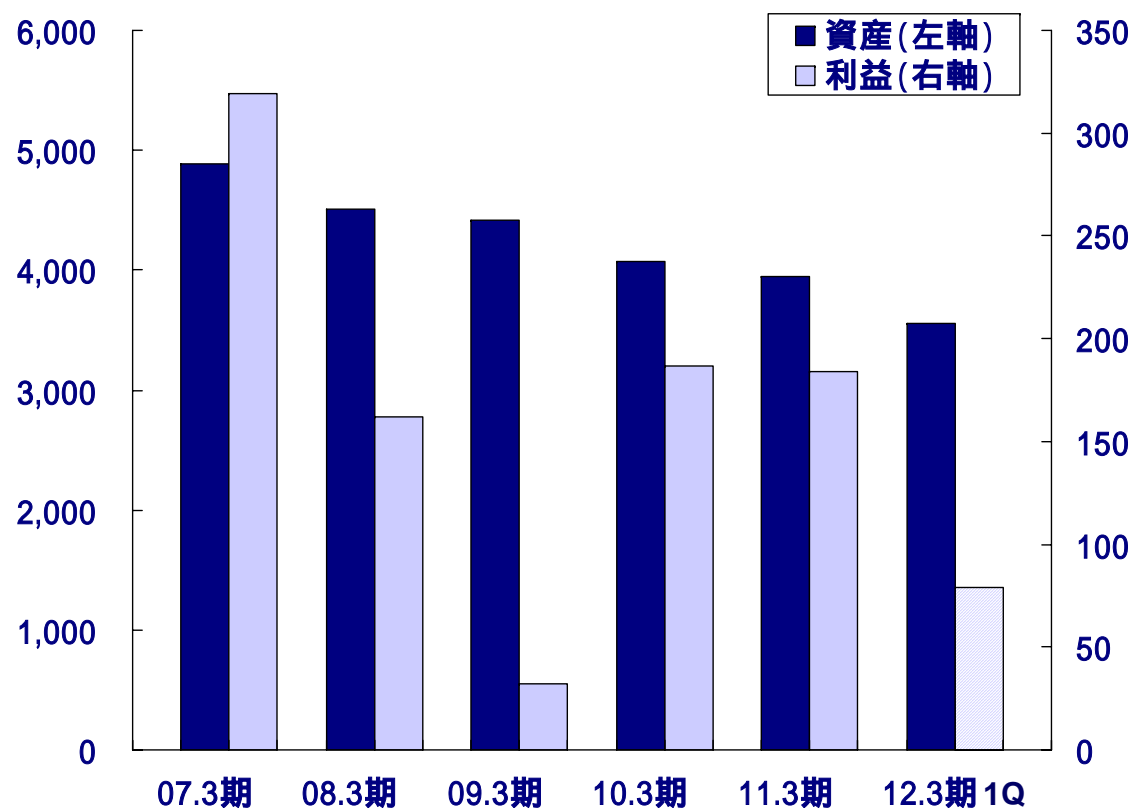
今後の成長戦略 1. 「金融 + サービス」の加速化

- どのような事業環境下でも強いポジショニングを維持
- バランスの取れたアセットビジネスとフィービジネスのポートフォリオ

米国事業の資産 / 利益

(単位: 億円)

(単位: 億円)



フィービジネスのポートフォリオ
アドバイザリーサービス Houlihan Lokey Howard & Zukin
ローン組成・サービシング Red Capital
アセットマネジメント Mariner Investment

・ オリックスについて

・ オリックスの強み

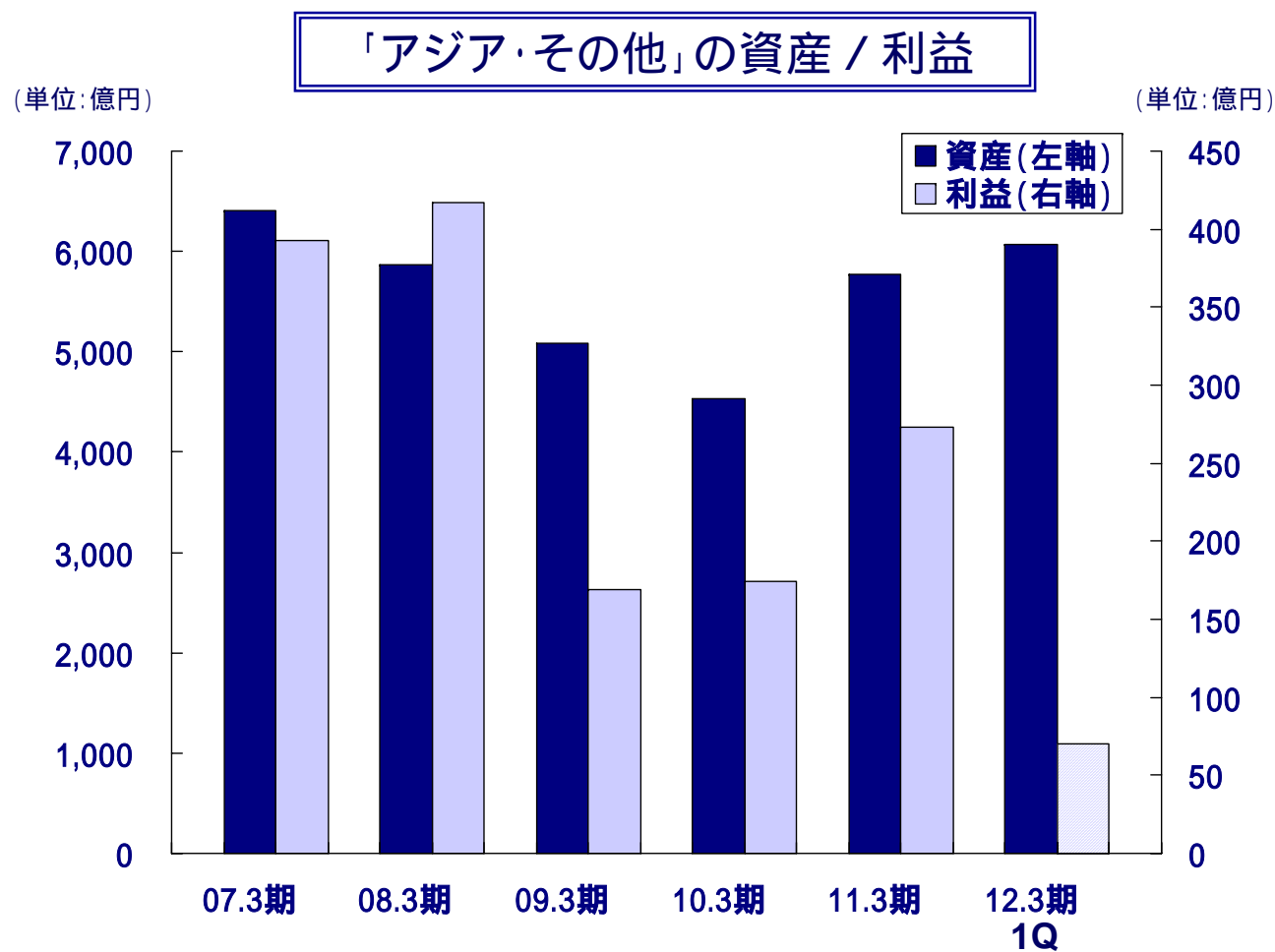
・ 今後の成長戦略

1. 「金融 + サービス」の加速化

2. アジア等新興国の成長を取り込む

今後の成長戦略 2. アジア等新興国の成長を取り込む

- 経済成長を取り込みながら、増益トレンドを強化していく



今後の成長戦略 2. アジア等新興国の成長を取り込む

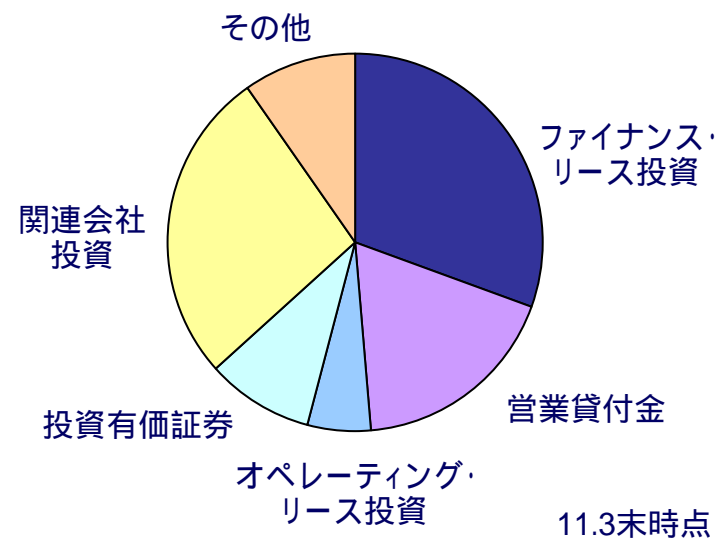
中華圏における事業

- 設立: 香港 1971年9月、台湾 1982年9月、中国 2004年8月
- 拠点: 香港2拠点、台湾7拠点、中国15拠点
- 従業員: 約500人
- 事業内容: リース、自動車リース、レンタカー、レンタル、割賦、融資、不良債権投資、エクイティ投資、その他金融サービス
- 中核会社名: ORIX Asia Limited, ORIX Taiwan Corporation, ORIX Taiwan Asset Management Company, ORIX China Corporation

中華圏におけるネットワーク



資産内訳

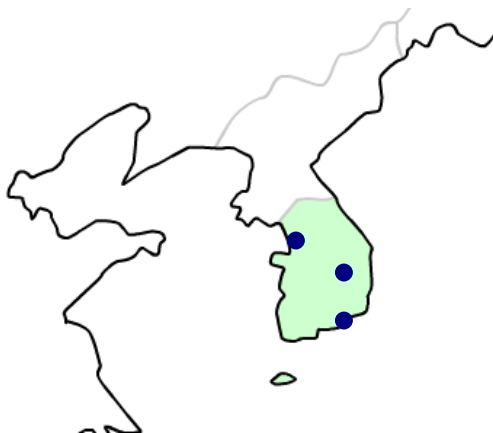


今後の成長戦略 2. アジア等新興国の成長を取り込む

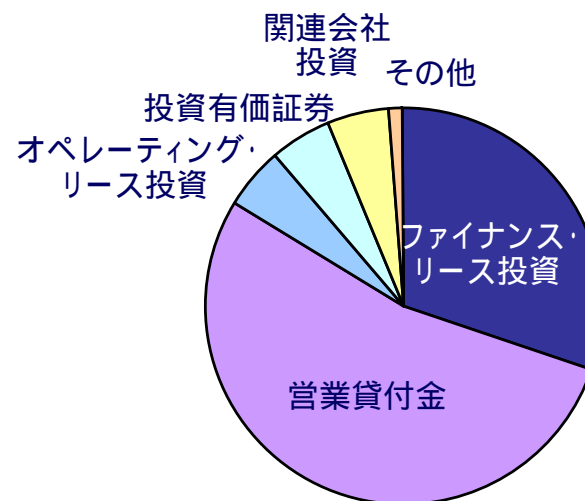
韓国における事業

- 設立： 2004年2月
- 拠点： 6拠点
- 従業員： 約200人
- 事業内容： リース、自動車リース、レンタル、割賦、融資、エクイティ投資
- 中核会社名：ORIX Capital Korea Corporation, ORIX Private Equity Korea Corporation, ORIX Rentec (Korea) Corporation

韓国におけるネットワーク



資産内訳



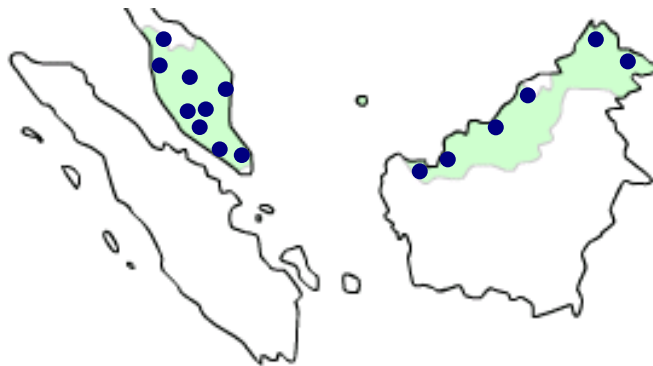
11.3末時点

今後の成長戦略 2. アジア等新興国の成長を取り込む

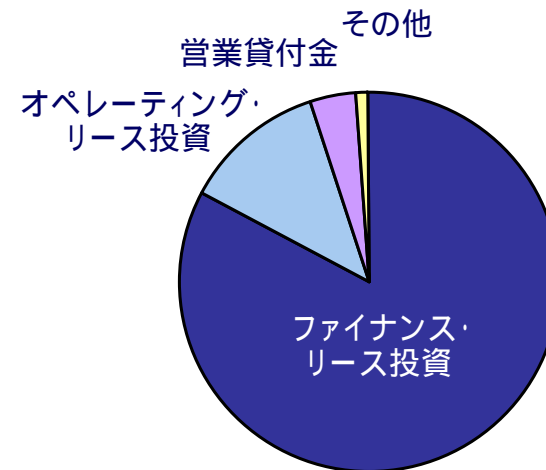
マレーシアにおける事業

- 設立: 1973年9月
- 拠点: 25拠点
- 従業員: 約650人
- 事業内容: リース、自動車リース、レンタカー、レンタル、割賦、融資、不良債権投資
- 中核会社名: ORIX Leasing Malaysia Berhad, ORIX Car Rentals Sdn. Bhd.,
ORIX Rentec (Malaysia) Sdn. Bhd., ORIX Asset Management Sdn. Bhd.

マレーシアにおけるネットワーク



資産内訳



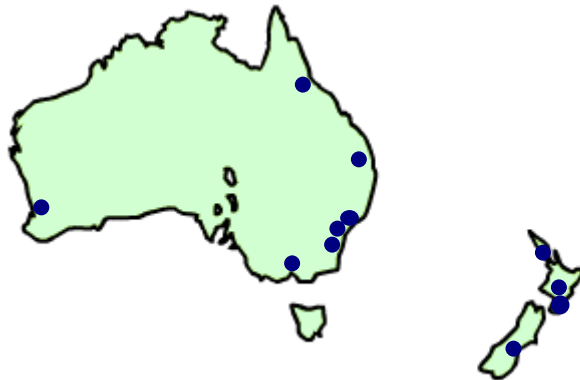
11.3末時点

今後の成長戦略 2. アジア等新興国の成長を取り込む

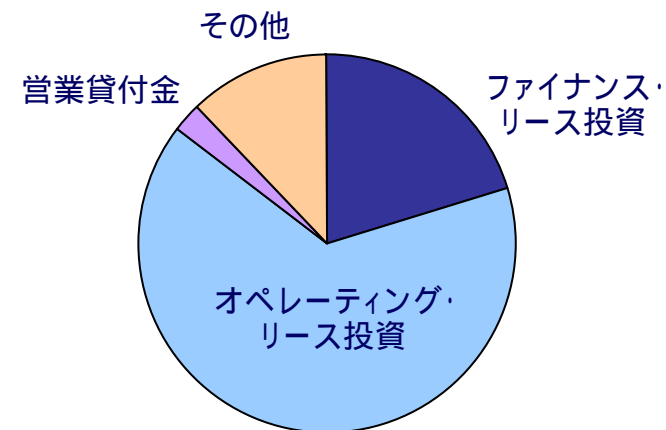
オセアニアにおける事業

- 設立: 1986年7月
- 拠点: 19拠点
- 従業員: 約300人
- 事業内容: 自動車リース、レンタカー
- 中核会社名: ORIX Australia Corporation Limited, ORIX New Zealand Limited

オーストラリア、ニュージーランドにおけるネットワーク



資産内訳



11.3末時点

今後の成長戦略 2. アジア等新興国の成長を取り込む

■ アジアでの継続的な投資実績(一例)

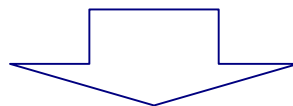
	会社名	国	事業内容
2009/3期以前	AirAsia X	マレーシア	航空会社(LCC)
	Tune Hotels	マレーシア	ホテル業
	Federal Land Orix(Midori)	フィリピン	マンション開発
2010/3期	大連海昌企業発展	中国	観光事業 他
2011/3期	上海民富股権投資管理	中国	ファンド運営
	バロックジャパン	日本	アパレル
	Indochina Capital	ベトナム	ファンド運営
	中国本社ビルPJ	中国	不動産開発
	オリックス貯蓄銀行	韓国	貯蓄銀行
2012/3期 1Q	ヌティフード	ベトナム	乳飲料製造業
	中国水務集団	中国	水道施設運営
	未来アセット生命	韓国	生命保険

詳細はプレスリリースを
ご覧下さい。

・ 今後の成長戦略 まとめ

「常に新しい価値を創造し、進化しながら成長する」

- ✓ 「金融 + サービス」の加速化
- ✓ アジア等新興国の成長を取り込む



強みを十分に発揮しながら、新しい成長軌道へ

補足資料 米国会計基準に準拠しない財務指標

本資料は、米国会計基準に準拠しない(Non GAAP)財務指標が含まれています。具体的には、2010年4月1日に適用された証券化に伴う支払債務(ABS、CMBS)および変動持分事業体(VIE)の連結にかかる新会計基準の適用による利益剰余金への累積的影響額を控除した長期借入債務、当社株主資本および総資産や、さらにそれらを用いて計算したその他の指標を、Non GAAP財務指標として開示しています。

これらのNon GAAP財務指標は、2011年6月30日末日の財政状態を過年度期間と比較する上で意味のある追加的な情報を投資家に提供していると考えています。2010年4月1日に会計基準書アップデート第2009-16号および2009-17号を適用したことで、特定のVIEを連結することが求められました。新会計基準の適用は、連結財務諸表上の資産および負債の著しい増加と利益剰余金(税効果控除後)の減少をもたらしましたが、これら連結VIEへの投資から得られる正味のキャッシュ・フローや経済的效果は変わりありません。したがって、米国会計基準に準拠して計算された財務情報の補足として、特定のVIEを連結することによる資産・負債への影響を除いた財務指標を提供することは、現在の財政状態の全体的な理解を向上させ、新会計基準の適用による貸借対照表の大きな変動を除くこれまでの財務および営業のトレンドを投資家が評価することを可能にしていると考えています。

米国会計基準に準拠した連結財務諸表の補足情報としてNon GAAP財務指標を提供しており、Non GAAP財務指標だけを利用したり、Non GAAP財務指標をその最も直接的に比較できる米国会計基準に準拠した財務指標の代替指標として利用すべきではありません。これらNon GAAP財務指標と米国会計基準に準拠した最も直接的に比較することができる財務指標との調整表を本資料で開示された期間について示すと、P.35のとおりになります。

補足資料 米国会計基準に準拠しない財務指標

(単位:億円)

財務指標		2007.3	2008.3	2009.3	2010.3	2011.3	2011.6
短期借入債務		11,744	13,301	7,982	5,736	4,786	4,336
長期借入債務	(a)	38,631	44,622	44,538	38,363	45,313	44,551
控除:ファイナンス・リースおよび貸付債権等の証券化に伴う支払債務*		2,605	3,749	3,590	2,022	10,182	9,738
調整後長期借入債務	(b)	36,025	40,873	40,949	36,340	35,131	34,813
長短借入債務(預金除く)	(c)	50,374	57,923	52,520	44,098	50,099	48,887
調整後長短借入債務(預金除く)	(d)	47,769	54,174	48,930	42,076	39,917	39,149
長期借入比率(ABS, CMBS含む)	(a)/(c)	77%	77%	85%	87%	90%	91%
長期借入比率(ABS, CMBS除く)	(b)/(d)	75%	75%	84%	86%	88%	89%

(*) 長期借入債務から控除されたV I E連結に伴うファイナンス・リースおよび貸付債権等の証券化に伴う支払債務

オリックスに関する追加情報については、弊社ホームページをご参照いただくか、下記までご連絡下さい。

ホームページ: URL: <http://www.orix.co.jp>

投資家情報: URL: <http://www.orix.co.jp/grp/ir>

なお、年次報告書 2 0 1 1 をご希望の方は上記URLからご参照ください。

オリックス株式会社 経営企画部 IRチーム

〒108-0014 東京都港区芝4丁目1番23号

TEL : 03-5419-5041

FAX : 03-5419-5901